

図 5-13 寝返り

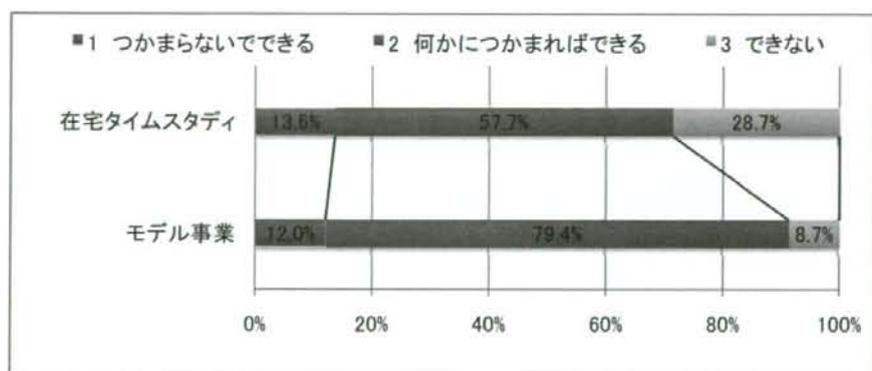


図 5-14 起き上がり

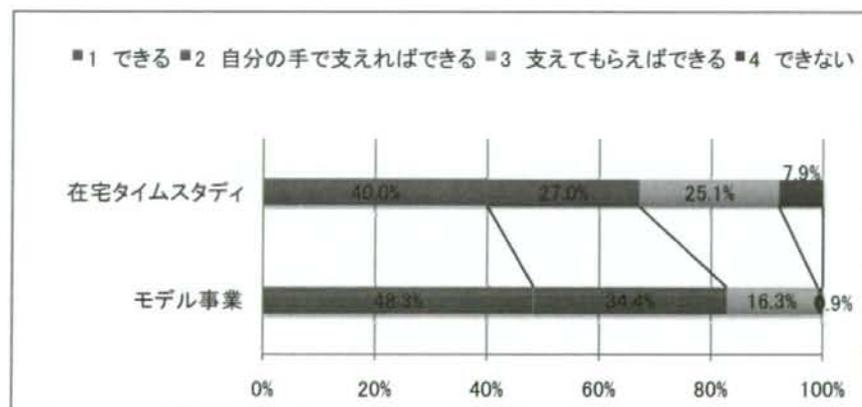


図 5-15 座位保持

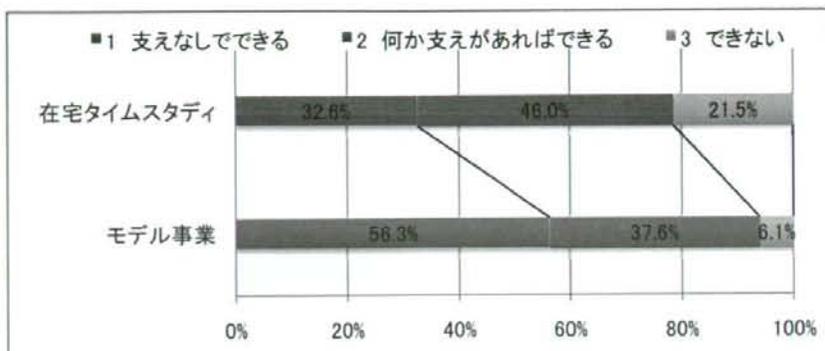


図 5-16 両足立位保持

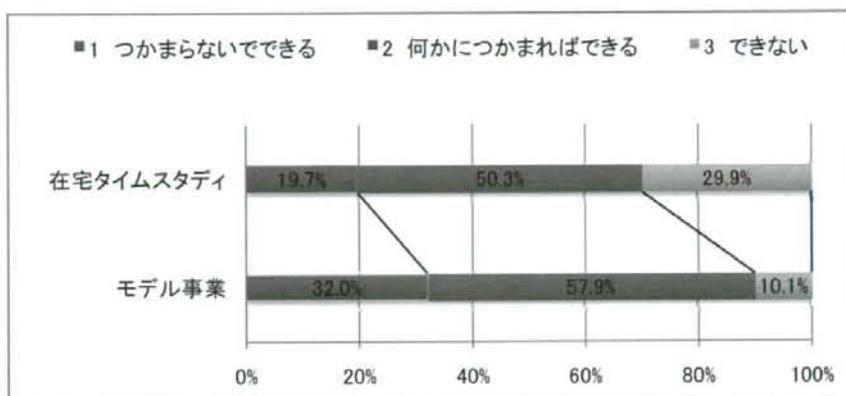


図 5-17 歩行

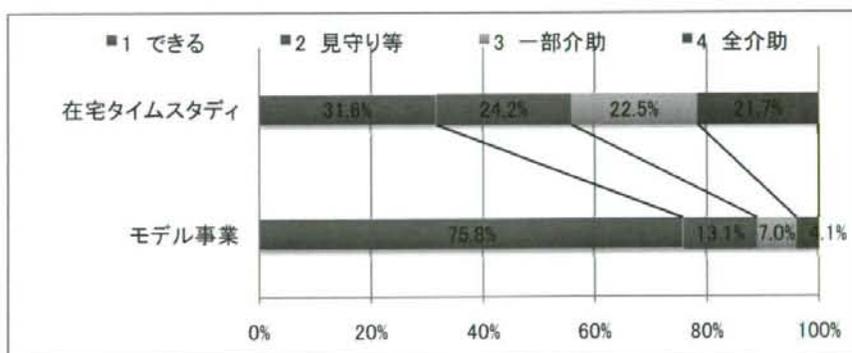


図 5-18 移乗

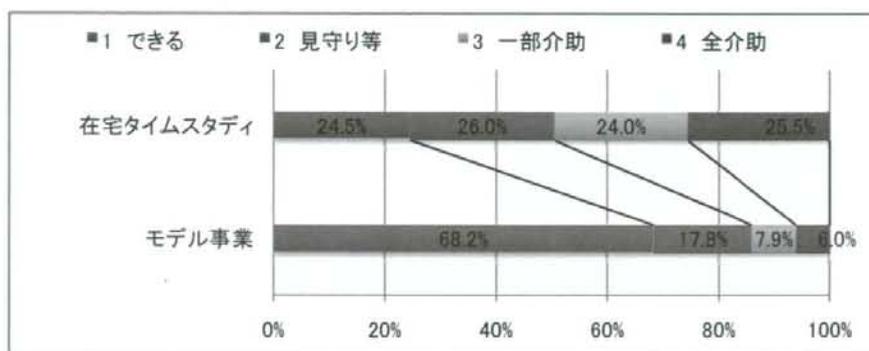


図 5-19 移動方法

3) 複雑な動作等関連

在宅タイムスタディ調査対象群においては、「立ち上がり」26.8%、「片足立位保持」47.3%が「できない」と回答しており、これらの動作に支障があることが明らかにされた。一方、モデル事業の対象となった高齢者群では、それぞれ8.1%、16.7%と示されており、在宅タイムスタディ調査対象群において、統計的にも有意に低い能力であることが示された。

また、「洗身」においては、在宅タイムスタディ調査対象群では、43.9%が「全介助」とされたのに対し、モデル事業の対象群は、13.2%を示しており、モデル事業の調査対象群よりも全介助の割合も有意に高かった。

基礎的な身体動作において、有意に低いだけでなく、複雑な動作等関連項目についても在宅タイムスタディの対象となった高齢者群の自立度が顕著に低いことが示された。

表 5-17 複雑な動作等関連項目の回答傾向

		在宅タイムスタディ		モデル事業		P値
		N	%	N	%	
立ち上がり	1 つかまらないうでできる	29	6.2%	1,487	5.7%	**
	2 何かにつかまればできる	315	67.0%	22,573	86.2%	
	3 できない	126	26.8%	2,118	8.1%	
片足立位保持	1 支えなしでできる	29	6.2%	3,612	13.8%	**
	2 何か支えがあればできる	219	46.5%	18,190	69.5%	
	3 できない	223	47.3%	4,376	16.7%	
洗身	1 できる	52	11.0%	10,684	40.8%	**
	2 一部介助	199	42.3%	11,534	44.1%	
	3 全介助	207	43.9%	3,466	13.2%	
	4 行っていない	13	2.8%	494	1.9%	

**P<0.01 *P<0.05

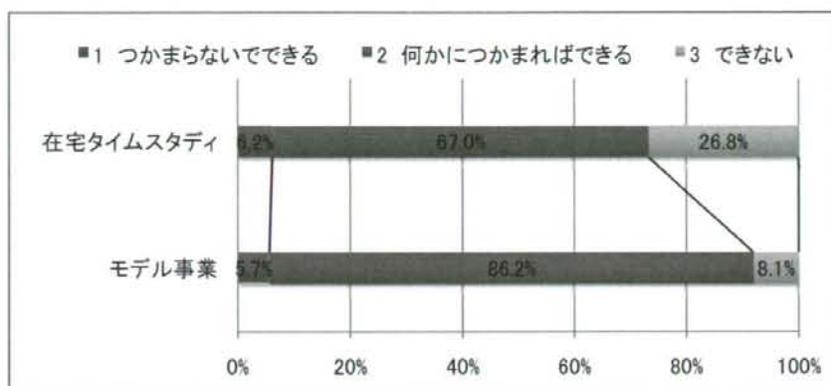


図 5-20 立ち上がり

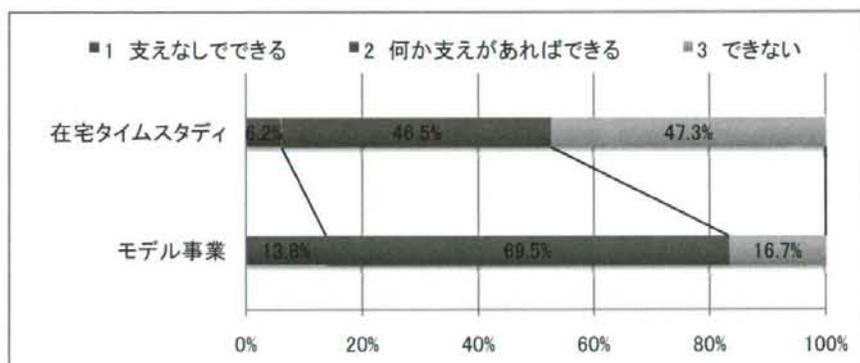


図 5-21 片足立位保持

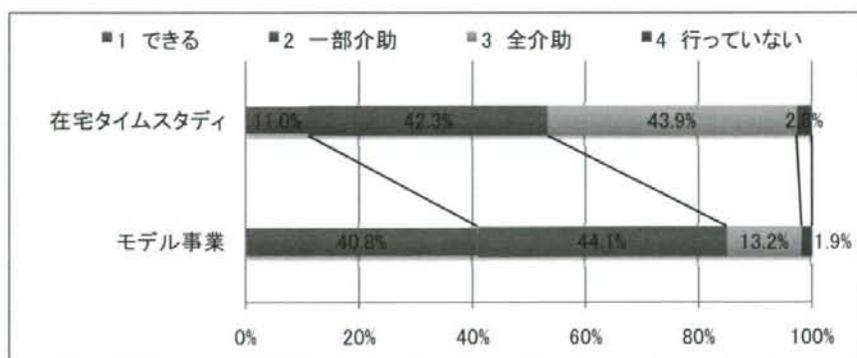


図 5-22 洗身

4) 特別な介護等関連

在宅タイムスタディ調査対象群は、「ある」と回答した割合が「皮膚疾患」においては33.0%とモデル事業32.5%との有意差は示されなかった。

「じょくそう」は、在宅タイムスタディ調査群において「ある」8.2%に対して、モデル事業の高齢者群は、2.7%で統計的に有意に高い割合を示していた。

「えん下」は、在宅タイムスタディ調査の高齢者群は、「できない」5.8%、「見守り」32.6%と自立が6割程度であったが、モデル事業の対象者高齢者群は、「できる」が83.9%と示され、在宅タイムスタディ調査の対象の高齢者群に、有意にえん下困難な高齢者が多かった。

「排尿」、「排便」は、在宅タイムスタディ調査の高齢者群は、それぞれ33.5%、35.4%が「全介助」と示され、モデル事業調査の対象者群より、有意に介助が必要な高齢者が多いことを示していた。

「食事摂取」についても在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群では、「できる」は49.6%であるのに対して、モデル事業の対象者は、84.7%であり、在宅のタイムスタディ調査の対象者の自立度は有意に低かった。

また、食事だけでなく、「飲水」においても在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群では、「できる」は43.5%であるのに対して、モデル事業の対象者は、76.7%であり、有意に自立度が低かった。ただし、食事よりも飲水の自立度のほうが高く、調査項目の定義に課題がある可能性も示された。

このように「皮膚疾患」の有無に有意差が示されなかったことを除けば、在宅のタイムスタディ調査の対象となった高齢者群は、じょくそうも多く、えん下に見守り等の介助が必要で、食事や飲水についても自立していない高齢者が多くいたことがわかった。

同様に、排尿や排便についても約7割がなんらかの介助を必要としており、モデル事業の対象となった高齢者群において、なんらかの介助が必要な割合が3割であったことを鑑みると、在宅タイムスタディの群は、モデル事業の群に比べ、食事、排泄、じょくそうなど、多様な特別な介護を受けていた。

表 5-18 特別な介護等関連項目の回答傾向

		在宅タイムスタディ		モデル事業		P値
		N	%	N	%	
じよくそう	1 ない	426	91.8%	25,475	97.3%	**
	2 ある	38	8.2%	703	2.7%	
皮膚疾患	1 ない	310	67.0%	17,665	67.5%	
	2 ある	153	33.0%	8,513	32.5%	
えん下	1 できる	287	61.6%	21,958	83.9%	**
	2 見守り等	152	32.6%	4,127	15.8%	
	3 できない	27	5.8%	93	0.4%	
食事摂取	1 できる	231	49.0%	22,162	84.7%	**
	2 見守り等	108	22.9%	1,952	7.5%	
	3 一部介助	63	13.4%	1,536	5.9%	
	4 全介助	69	14.6%	528	2.0%	
飲水	1 できる	205	43.5%	20,073	76.7%	**
	2 見守り等	128	27.2%	4,289	16.4%	
	3 一部介助	75	15.9%	1,425	5.4%	
	4 全介助	63	13.4%	391	1.5%	
排尿	1 できる	126	26.9%	16,785	64.1%	**
	2 見守り等	69	14.7%	1,957	7.5%	
	3 一部介助	117	24.9%	4,004	15.3%	
	4 全介助	157	33.5%	3,432	13.1%	
排便	1 できる	137	29.2%	17,562	67.1%	**
	2 見守り等	64	13.6%	1,946	7.4%	
	3 一部介助	102	21.7%	3,159	12.1%	
	4 全介助	166	35.4%	3,511	13.4%	

**P<0.01 *P<0.05

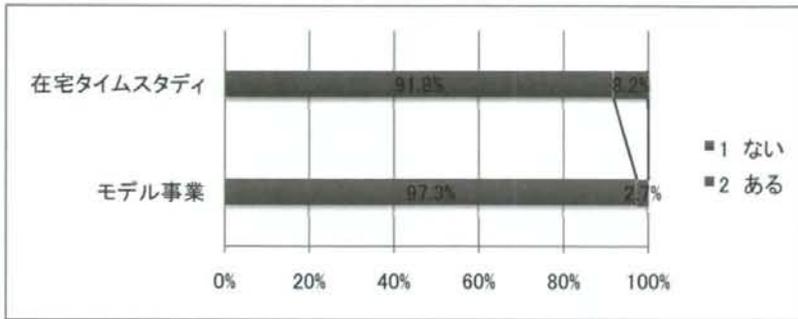


図 5-23 じよくそう

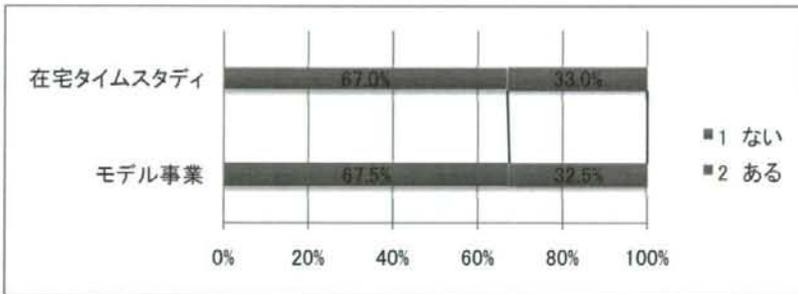


図 5-24 皮膚疾患

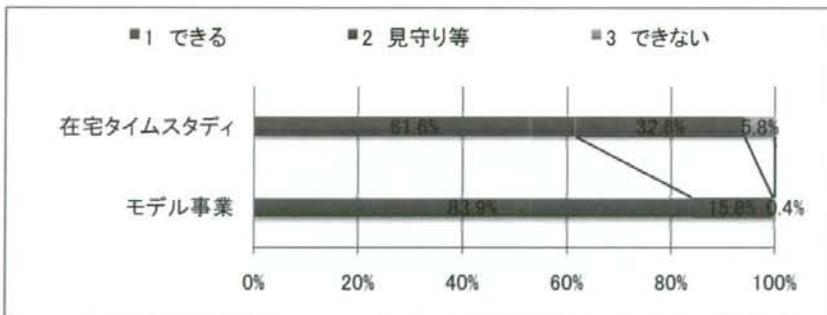


図 5-25 えん下

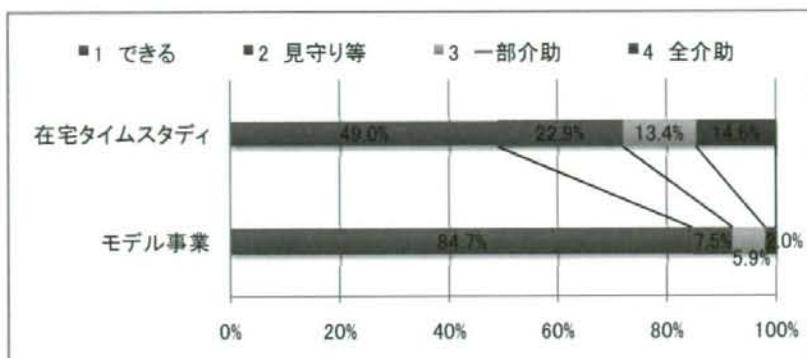


図 5-26 食事摂取

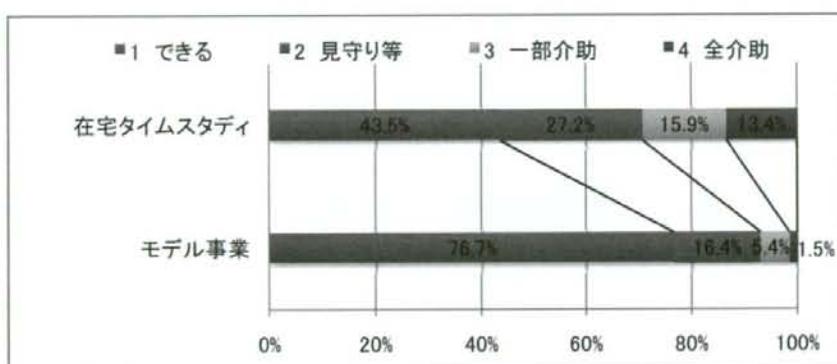


図 5-27 飲水

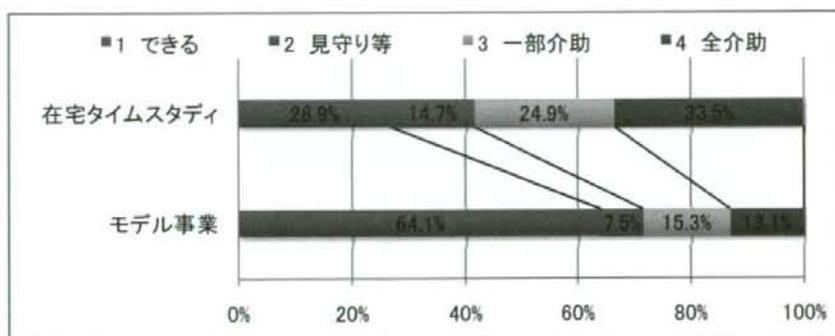


図 5-28 排尿

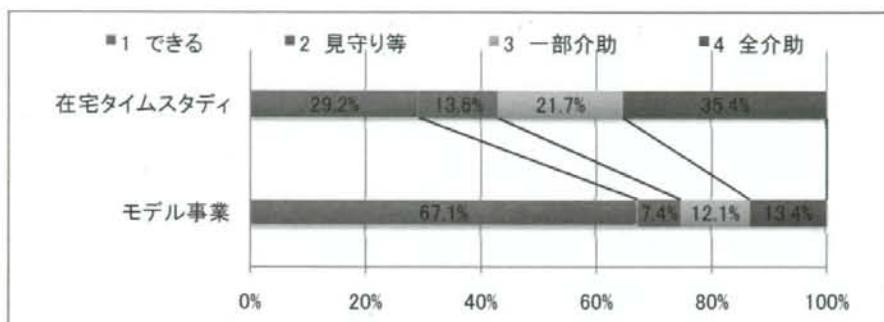


図 5-29 排便

5) 身の回りの世話等関連

在宅タイムスタディ調査対象群では、「口腔清潔」が24.7%、「洗顔」が23.5%、「整髪」が27.8%、「つめ切り」が66.2%、「上衣の着脱」29.5%、「ズボン等着脱」33.8%、「薬の内服」28.0%、「金銭の管理」56.5%、「電話の利用」53.1%が「全介助」と回答していた。この割合は、いずれもモデル事業の対象となった高齢者群よりも有意に高い割合を示していた。

また、「日常の意思決定」における「できない」11.3%で、モデル事業の対象者においては、わずか1.1%となっていたことを鑑みると、モデル事業の調査対象群よりも在宅タイムスタディ調査の対象群は、日常生活を送るために、多くの介助を必要としており、さらに意思決定も困難な状態であることが示された。

同様に、在宅タイムスタディ調査の対象者においては、社会生活にかかわる「金銭の管理」および「電話の利用」については、「全介助」という回答が、それぞれ、56.5%、53.1%と5割以上を示しており、社会生活に大きな支障があることを示していた。

「薬の内服」は、在宅のタイムスタディ調査の対象となった高齢者群は、「できる」は、わずかに17.0%であり、「全介助」が28.0%であるのに対して、モデル事業の対象となった高齢者群は、それぞれ46.3%、4.3%と有意に低い割合であることから、在宅のタイムスタディ調査の対象となった高齢者群のほうが有意に薬の内服の自立度も低いことが示された。

表 5-19 身の回りの世話等関連項目の回答傾向

		在宅タイムスタディ		モデル事業		P値
		N	%	N	%	
口腔清潔	1 できる	191	40.7%	20,258	77.4%	**
	2 一部介助	162	34.5%	4,849	18.5%	
	3 全介助	116	24.7%	1,071	4.1%	
洗顔	1 できる	197	42.0%	20,644	78.9%	**
	2 一部介助	162	34.5%	4,123	15.7%	
	3 全介助	110	23.5%	1,411	5.4%	
髪髪	1 できる	216	46.3%	21,489	82.1%	**
	2 一部介助	121	25.9%	2,763	10.6%	
	3 全介助	130	27.8%	1,926	7.4%	
つめ切り	1 できる	61	13.0%	10,438	39.9%	**
	2 一部介助	97	20.7%	6,074	23.2%	
	3 全介助	310	66.2%	9,666	36.9%	
上衣の着脱	1 できる	111	23.7%	16,715	63.9%	**
	2 見守り等	64	13.7%	2,001	7.6%	
	3 一部介助	155	33.1%	6,257	23.9%	
	4 全介助	138	29.5%	1,205	4.6%	
ズボン等着脱	1 できる	93	19.9%	16,699	63.8%	**
	2 見守り等	60	12.8%	1,981	7.6%	
	3 一部介助	156	33.4%	5,718	21.8%	
	4 全介助	158	33.8%	1,780	6.8%	
薬の内服	1 できる	80	17.0%	12,110	46.3%	**
	2 一部介助	259	55.0%	12,954	49.5%	
	3 全介助	132	28.0%	1,114	4.3%	
金銭の管理	1 できる	83	17.6%	12,568	48.0%	**
	2 一部介助	122	25.9%	8,474	32.4%	
	3 全介助	266	56.5%	5,136	19.6%	
電話の利用	1 できる	89	18.9%	11,615	44.4%	**
	2 一部介助	132	28.0%	10,131	38.7%	
	3 全介助	250	53.1%	4,432	16.9%	
日常の意思決定	1 できる	144	30.6%	12,693	48.5%	**
	2 特別な場合を除いてできる	158	33.5%	9,185	35.1%	
	3 日常的に困難	116	24.6%	4,004	15.3%	
	4 できない	53	11.3%	296	1.1%	

**P<0.01 *P<0.05

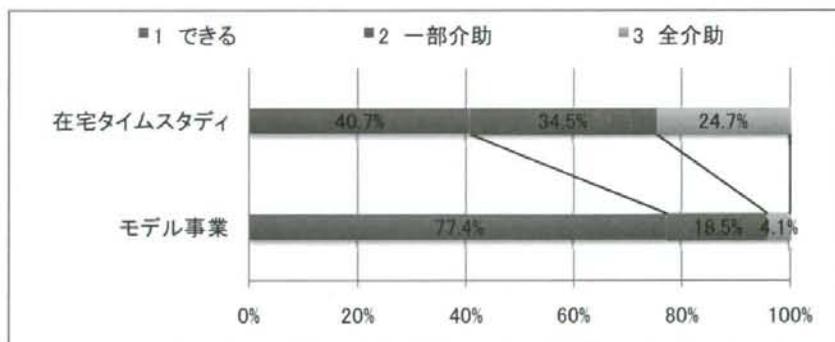


図 5-30 口腔清潔

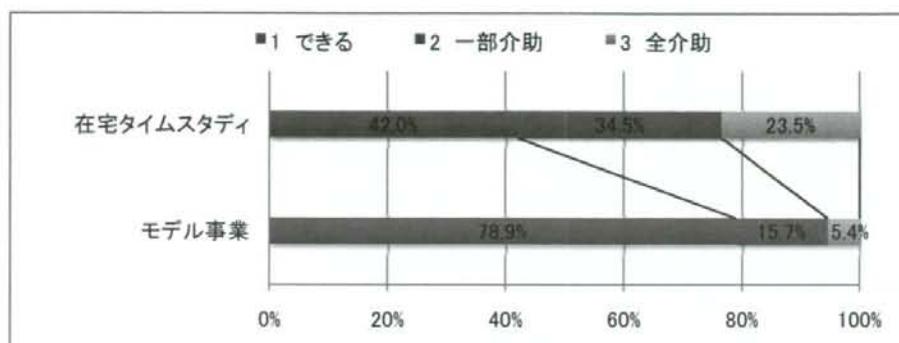


図 5-31 洗顔

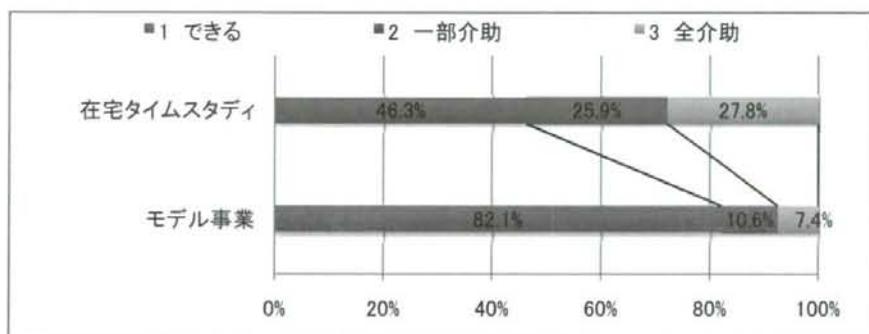


図 5-32 整髪

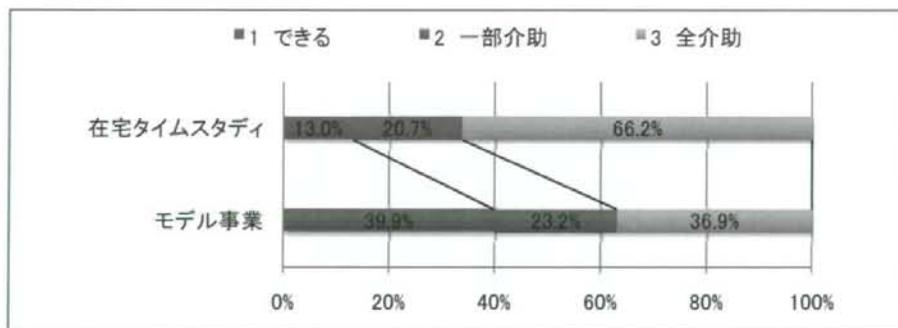


図 5-33 つめ切り

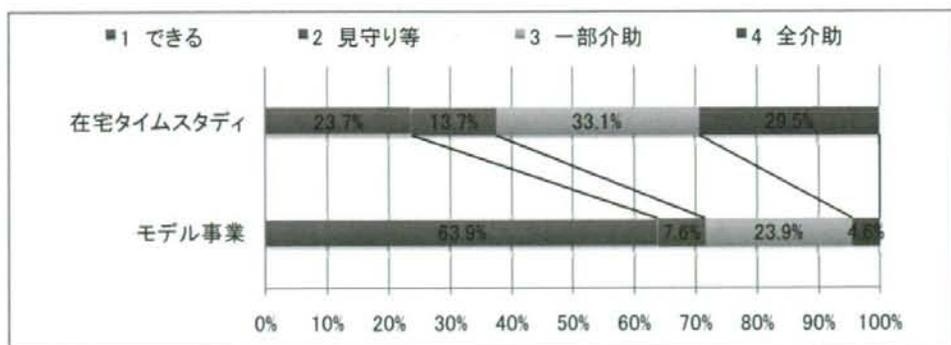


図 5-34 上衣の着脱

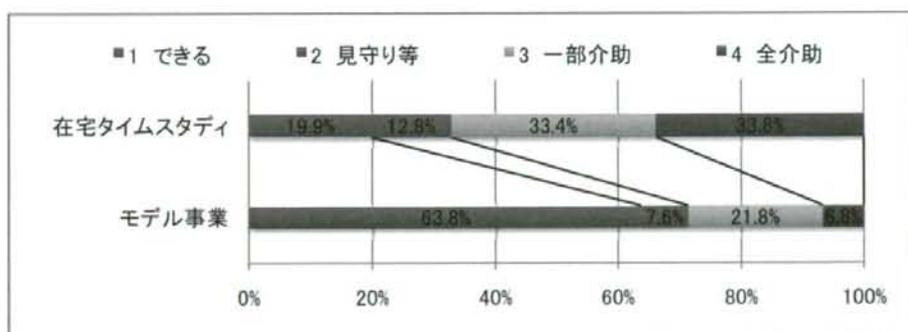


図 5-35 ズボン等の着脱

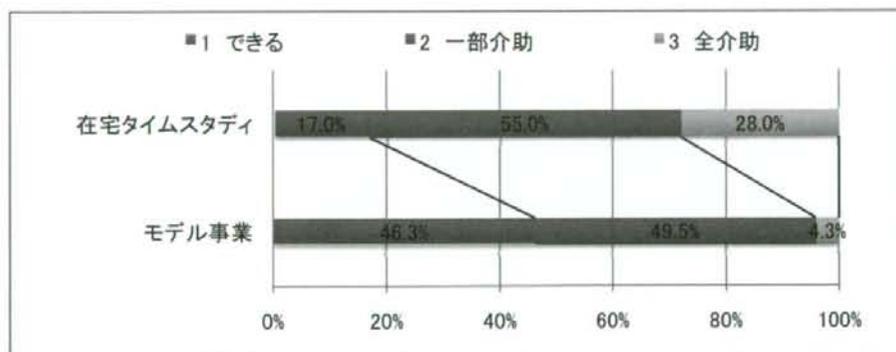


図 5-36 薬の内服

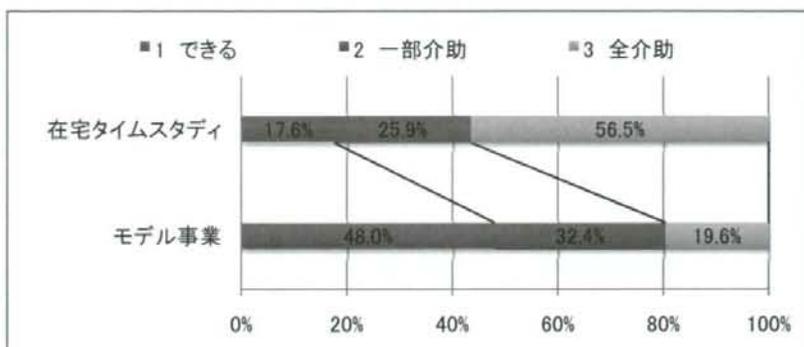


図 5-37 金銭の管理

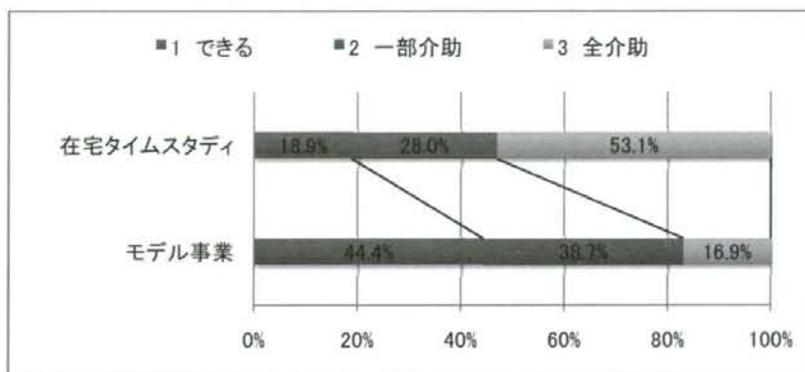


図 5-38 電話の利用

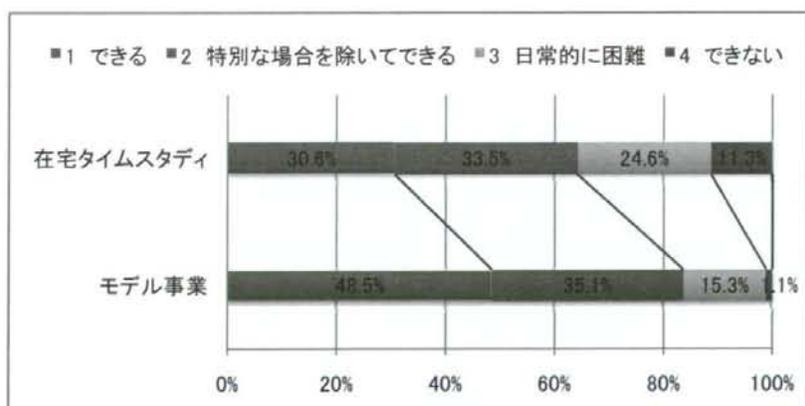


図 5-39 日常の意思決定

6) コミュニケーション等関連

在宅タイムスタディ調査対象群とモデル事業調査対象群の両群の比較をした結果、在宅タイムスタディ調査対象群は、「普通」と回答した割合について、「視力」65.2%、「聴力」54.1%であったのに対し、モデル事業の調査の対象となった高齢者は、それぞれ、77.1%、54.9%となっていた。聴力については、在宅タイムスタディ調査の対象者において「聞こえているのか判断不明」の割合が3.0%と高く、聴力の問題ではなく、コミュニケーションについて困難さを抱えている割合が高いことが推察された。

また、在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者の「できない」と回答した割合をみると、「意思の伝達」4.7%、「指示への反応」6.6%、「毎日の日課を理解」47.7%、「生年月日を答える」24.7%、「直前を思い出す」43.4%、「名前を答える」11.5%、「今の季節を理解」36.0%、「場所を答える」22.8%となっており、モデル事業の対象となった高齢者群が、それぞれ、0.4%、0.6%、23.1%、6.6%、26.8%、1.1%、4.8%と示された。

このように、在宅のタイムスタディ調査の対象となった高齢者群において、有意にコミュニケーション能力が低い高齢者が含まれていることが示された。

表 5-20 コミュニケーション等関連項目の回答傾向

	在宅タイムスタディ		モデル事業		P値	
	N	%	N	%		
視力	1 普通	307	65.2%	20,193	77.1%	**
	2 約1m離れた視力確認票の図が見える	104	22.1%	4,782	18.3%	
	3 目の前に置いた視力確認票の図が見え	30	6.4%	871	3.3%	
	4 ほとんど見えない	9	1.9%	284	1.1%	
	5 見えているのか判断不能	21	4.5%	48	0.2%	
聴力	1 普通	255	54.1%	14,966	54.9%	*
	2 普通の声はやっと聞こえる	108	22.5%	8,216	31.4%	
	3 かなり大きな声なら何とか聞こえる	92	19.5%	3,430	13.1%	
	4 ほとんど聞こえない	4	0.8%	145	0.6%	
	5 聞こえているのか判断不能	14	3.0%	21	0.1%	
意思の伝達	1 伝達できる	273	58.0%	21,529	82.2%	**
	2 とときどき伝達できる	127	27.0%	4,092	15.6%	
	3 ほとんど伝達できない	49	10.4%	454	1.7%	
	4 できない	22	4.7%	103	0.4%	
指示への反応	1 指示が通じる	282	60.4%	20,641	78.8%	**
	2 指示がときどき通じる	154	33.0%	5,375	20.5%	
	3 指示が通じない	31	6.6%	162	0.6%	
毎日の日課を理解	1 できる	246	52.3%	20,119	76.9%	**
	2 できない	224	47.7%	6,059	23.1%	
生年月日を答える	1 できる	354	75.3%	24,454	93.4%	**
	2 できない	116	24.7%	1,724	6.6%	
直前を思い出す	1 できる	266	56.6%	19,164	73.2%	**
	2 できない	204	43.4%	7,014	26.8%	
名前を答える	1 できる	415	88.5%	25,886	98.9%	**
	2 できない	54	11.5%	292	1.1%	
今の季節を理解	1 できる	300	64.0%	22,543	86.1%	**
	2 できない	169	36.0%	3,635	13.9%	
場所を答える	1 できる	362	77.2%	24,925	95.2%	**
	2 できない	107	22.8%	1,253	4.8%	

**P<0.01 *P<0.05

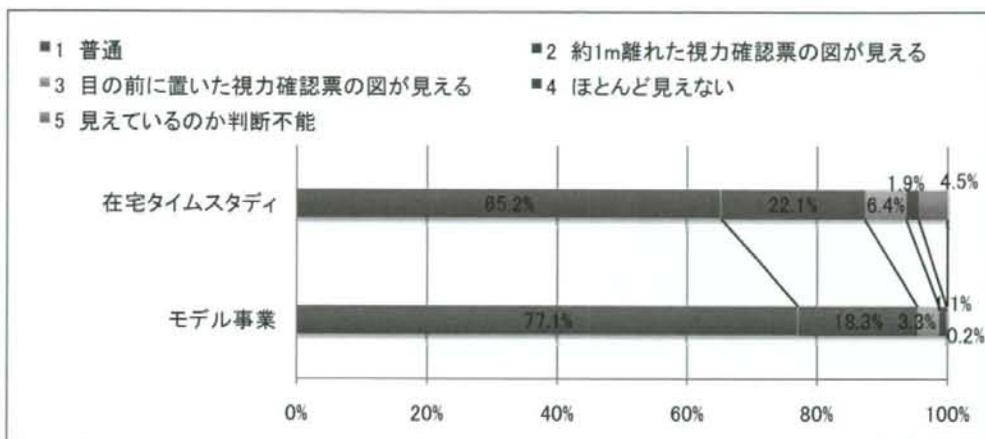


図 5-40 視力

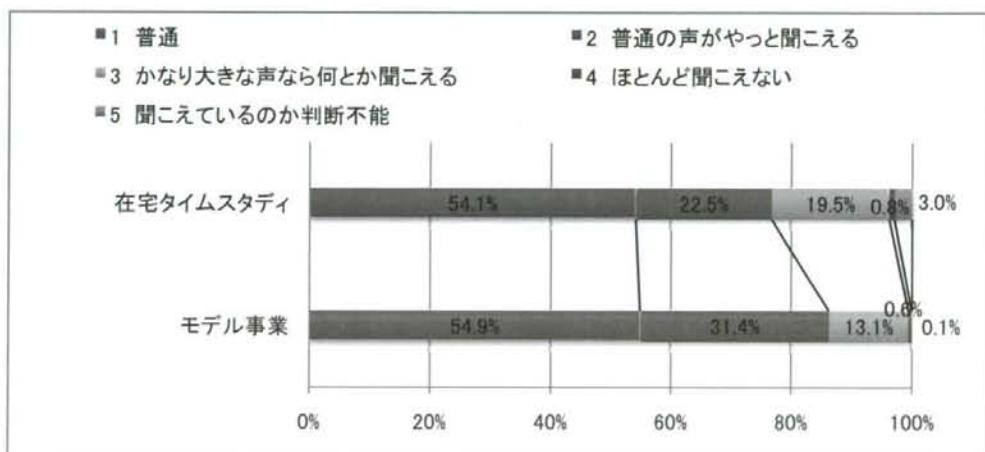


図 5-41 聴力

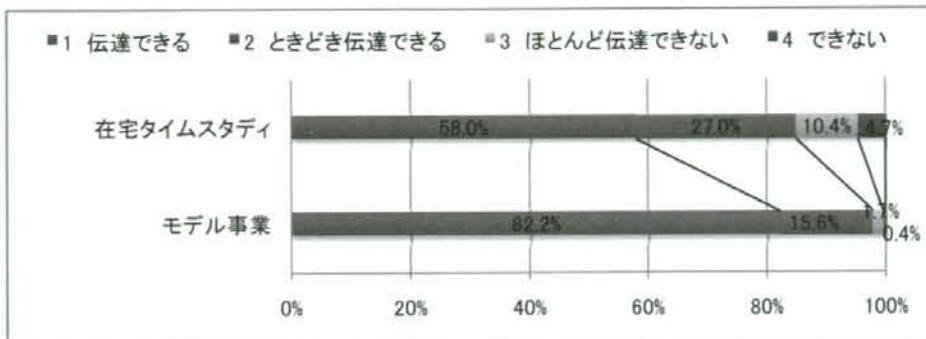


図 5-42 意思の伝達

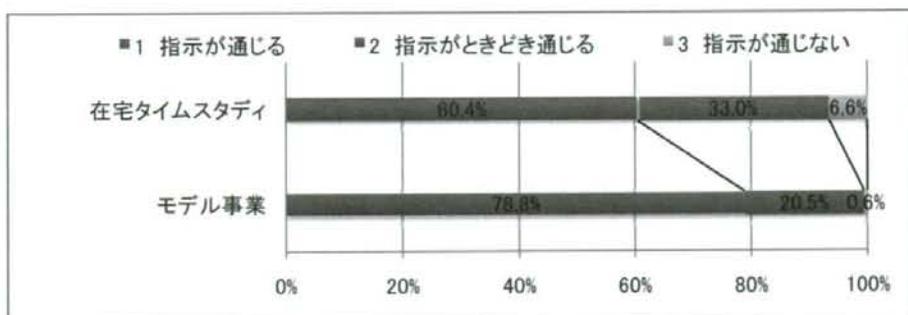


図 5-43 指示への反応

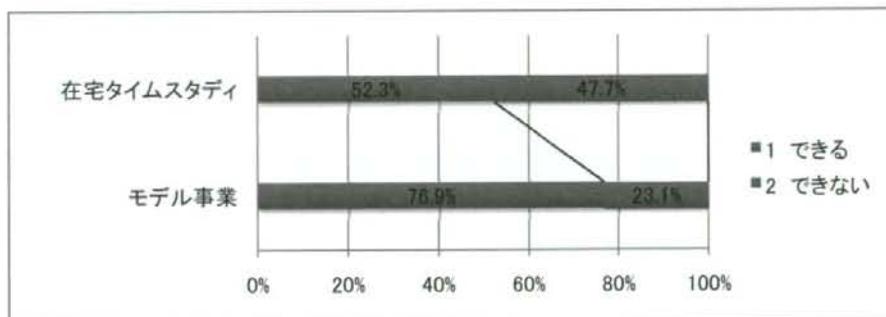


図 5-44 毎日の日課を理解

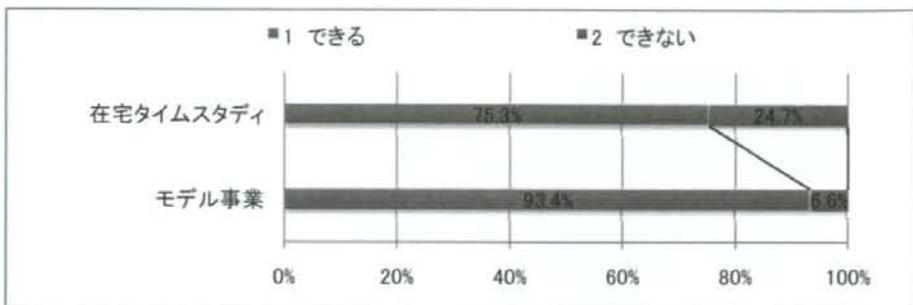


図 5-45 生年月日を答える

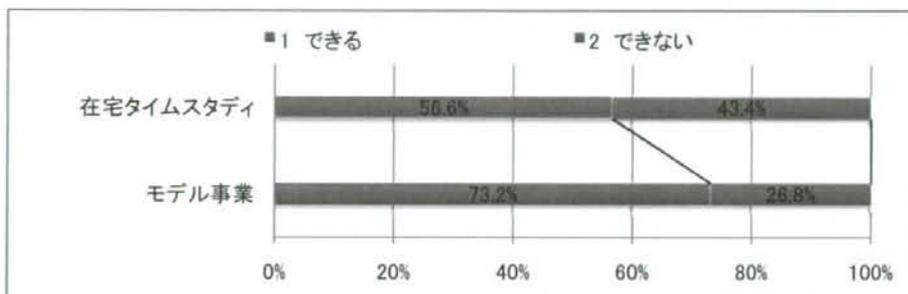


図 5-46 直前を思い出す

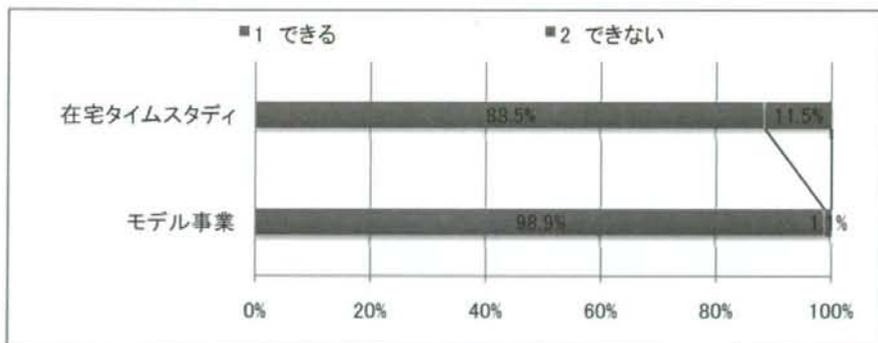


図 5-47 名前を答える



図 5-48 今の季節を理解

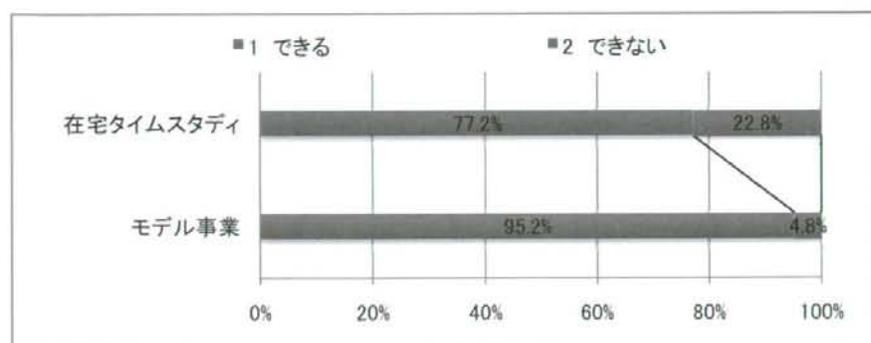


図 5-49 場所を答える

7) BPSD等関連

BPSD等関連の項目について「ある」「時々ある」の割合を合算し、表 5-22 に発生率を示した。在宅タイムスタディ調査対象群とモデル事業調査対象群の両群の比較をした結果、在宅タイムスタディ調査対象群は、「ひどい物忘れ」が 56.9%に対して、モデル事業の調査対象群では、42.3%と有意に低かった。この「ひどい物忘れ」が両群ともに、最も高い割合を示したBPSDであった。

次に、高い割合を示したのは、在宅タイムスタディ調査の対象群では、「介護に抵抗」が 28.8%で高い割合を示していたが、モデル事業の調査対象群において、次に多かったのは、「同じ話や不快な音をたてる」で 22.6%を示していた。モデル事業の対象においては、「介護に抵抗」は 12.7%で低い割合であった。

3番目に多かった「感情が不安定」は、在宅タイムスタディの調査の対象において 26.8%であったのに対して、モデル事業の調査対象群においては、19.1%と有意に低い割合であった。次いで多かった、「昼夜逆転」は、在宅タイムスタディ調査群が 24.9%に対して、モデル事業の調査対象群は 14.8%であった。在宅タイムスタディ調査の対象群では、次いで「同

じ話や不快な音」が 24.0%と示され、これはモデル事業の対象群に発生した割合の 22.6%よりは、高い割合を示していた。

モデル事業の調査対象者は、火元の管理 9.0%、大声を出す 8.1%、暴言や暴行 7.9%、被害的 7.8%、幻視・幻聴 7.2%、落ち着きが無い 3.7%、作話 3.5%、目が離せない 3.1%、目的無く、動き回る 3.0%、無断で収集 2.1%、1人で戻れない 1.9%、物や衣服の破壊 0.9%、不潔な行為 0.8%、異食行動 0.8%と示され、これらの BPSD の発生率は、10%未満であった。とくに物や衣服の破壊 0.9%、不潔な行為 0.8%、異食行動 0.8%は、1%未満でほとんど発生していなかった。

一方、在宅モデル事業の調査対象となった高齢者は、幻視・幻聴 16.0%、1人で戻れない 14.3%、大声を出す 13.9%、暴言や暴行 13.5%、被害的 12.5%、作話 11.9%、落ち着きが無い 11.1%、目的無く動き回る 11.1%、目が離せない 10.9%、火元の管理 10.2%も 10%を超えた高い割合を示していた。また、無断で収集 4.9%、不潔な行為 4.5%、異食行動 4.0%物や衣服の破壊 3.6%を示していた。

ただし、「同じ話や不快な音」と「火元の管理」については、統計的に有意差が認められず、「感情が不安定」「大声を出す」には、統計的に有意差が認められたが、モデル事業の調査の対象者の方があると回答した割合が高かった。それ以外の項目においては、在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群がモデル事業の群より有意に発生率が高い傾向があった。

認知症高齢者に示されるこういった様々な精神症状や行動障害は、一般に随伴精神行動障害 (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia, BPSD) と称され、その具体的な症状に、前述したような不安、うつ気分、幻覚、妄想などの精神症状、および叫び声、不穏、焦燥、徘徊、興奮、暴力行為、社会文化的に不適切な行動、性的行動、収集癖、暴言、しつこさなどの行動障害があるとされている。

認知症高齢者においては、BPSD が出現する頻度は 70%以上とされており、本調査の結果からは、対象となった在宅の要介護高齢者群は、いわゆる要介護高齢者群の中でも BPSD にかかわる行動の発生率が高い群であったと考えられた。本調査で用いられた各 BPSD の細項目を症状の共通性から 4 つの BPSD カテゴリとして、「1. 攻撃的行動」、「2. 行動の過多と変質」、「3. 不安と焦燥」、「4. その他の諸症状」に分類して示した。

在宅タイムスタディ調査の対象としては、とくに「1人で戻れない」という行動の発現率が 14.3%であり、モデル事業の対象となった高齢者群 1.9%に比較すると、7.5 倍の発現率であった。このことから、本調査の対象は、いわゆる動き回る認知症というべき状態像をもった高齢者が多く含まれていた集団であったと推察された。

表 5-21 BPSD等関連項目の回答傾向

		在宅タイムスタディ		モデル事業		P値
		N	%	N	%	
被害的	1 ない	412	87.5%	24,127	92.2%	**
	2 ときどきある	35	7.4%	782	3.0%	
	3 ある	24	5.1%	1,269	4.8%	
作話	1 ない	414	88.1%	25,253	96.5%	**
	2 ときどきある	24	5.1%	344	1.3%	
	3 ある	32	6.8%	581	2.2%	
幻視・幻聴	1 ない	395	84.0%	24,293	92.8%	**
	2 ときどきある	41	8.7%	740	2.8%	
	3 ある	34	7.2%	1,145	4.4%	
感情が不安定	1 ない	342	73.2%	21,177	80.9%	**
	2 ときどきある	73	15.6%	1,636	6.2%	
	3 ある	52	11.1%	3,365	12.9%	
昼夜逆転	1 ない	352	75.1%	22,304	85.2%	**
	2 ときどきある	66	14.1%	1,163	4.4%	
	3 ある	51	10.9%	2,711	10.4%	
暴言や暴行	1 ない	405	86.5%	24,107	92.1%	**
	2 ときどきある	37	7.9%	672	2.6%	
	3 ある	26	5.6%	1,399	5.3%	
同じ話や不快な音	1 ない	357	76.0%	20,266	77.4%	
	2 ときどきある	37	7.9%	955	3.6%	
	3 ある	76	16.2%	4,957	18.9%	
大声を出す	1 ない	404	86.1%	24,054	91.9%	**
	2 ときどきある	40	8.5%	695	2.7%	
	3 ある	25	5.3%	1,429	5.5%	
介護に抵抗	1 ない	333	71.2%	22,858	87.3%	**
	2 ときどきある	81	17.3%	943	3.6%	
	3 ある	54	11.5%	2,377	9.1%	
目的無く動き回る	1 ない	418	88.9%	25,380	97.0%	**
	2 ときどきある	26	5.5%	176	0.7%	
	3 ある	26	5.5%	622	2.4%	
落ち着きが無い	1 ない	416	88.9%	25,220	96.3%	**
	2 ときどきある	28	6.0%	285	1.1%	
	3 ある	24	5.1%	673	2.6%	
1人で戻れない	1 ない	403	85.7%	25,670	98.1%	**
	2 ときどきある	26	5.5%	283	1.1%	
	3 ある	41	8.7%	225	0.9%	
目が離せない	1 ない	419	89.1%	25,366	96.9%	**
	2 ときどきある	23	4.9%	282	1.1%	
	3 ある	28	6.0%	530	2.0%	
無断で収集	1 ない	447	95.1%	25,641	97.9%	**
	2 ときどきある	10	2.1%	147	0.6%	
	3 ある	13	2.8%	390	1.5%	
火元の管理	1 ない	421	89.8%	23,811	91.0%	
	2 ときどきある	20	4.3%	1,681	6.4%	
	3 ある	28	6.0%	686	2.6%	
物や衣服の破壊	1 ない	453	96.4%	25,936	99.1%	**
	2 ときどきある	8	1.7%	125	0.5%	
	3 ある	9	1.9%	117	0.4%	
不潔な行為	1 ない	448	95.5%	25,959	99.2%	**
	2 ときどきある	14	3.0%	103	0.4%	
	3 ある	7	1.5%	116	0.4%	
異常行動	1 ない	451	96.0%	25,965	99.2%	**
	2 ときどきある	11	2.3%	113	0.4%	
	3 ある	8	1.7%	100	0.4%	
ひどい物忘れ	1 ない	201	43.1%	15,092	57.7%	**
	2 ときどきある	88	18.9%	2,956	11.3%	
	3 ある	177	38.0%	8,130	31.1%	

**P<0.01 *P<0.05